

## 外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/01/06

### 主要国株価とローカル要因を見ながら

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	売りは一服した模様 予想レンジ: 90.900 ~ 95.800 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	➡	利上げ開始なるか 予想レンジ: 84.000 ~ 88.600 円	4-5
<u>ランド/円</u>	➡	こう着継続か 予想レンジ: 9.200 ~ 10.400 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



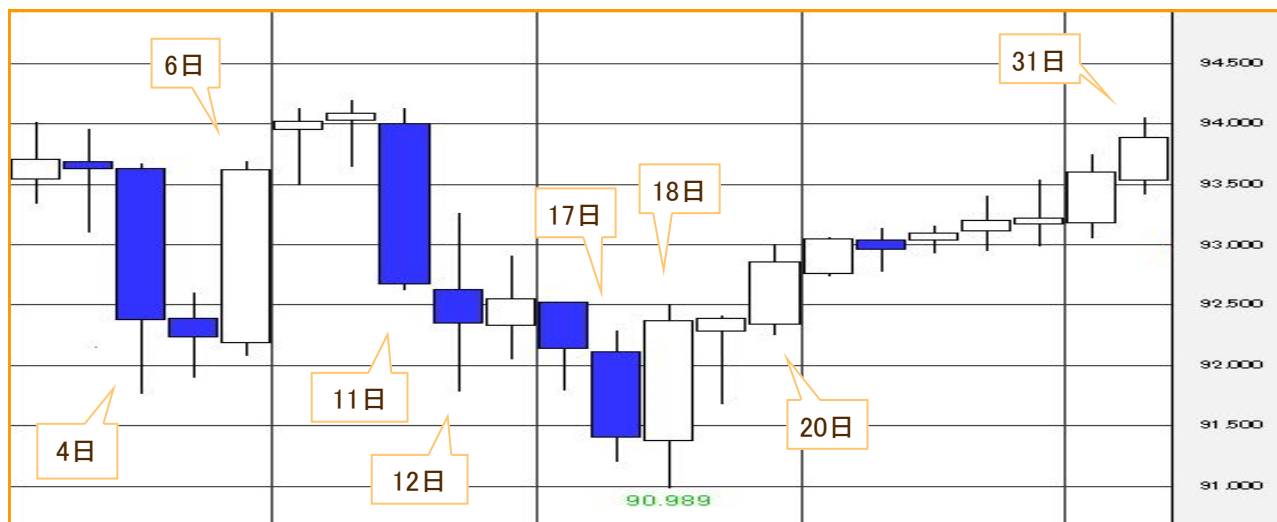
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD/JPY

## 豪ドル/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	93.547円	94.202円	90.989円	93.889円



4日	豪第3四半期国内総生産(GDP)が前期比+0.6%、前年比+2.3%と予想(+0.7%、+2.6%)を下回り、前回発表された前年比が下方修正(+2.6%→+2.4%)された。日米の株安も重石となり、豪ドル/円は91.778円まで大きく値を下げた。
6日	予想より強い結果となった米11月雇用統計を受けてNYダウ平均株価が大幅高となると、豪ドル/円は93.689円まで上昇した。
11日	オセアニア通貨売り・ユーロ買いの流れや、日米の株安を嫌気して、豪ドル/円は一日を通して軟調に推移。NY市場で92.634円まで下落した。
12日	豪ドル/円は夜間取引の日経平均先物の上昇を受けて93.262円まで値を上げるも、豪準備銀行(RBA)のステーブンス総裁が「豪ドル/米ドルは0.8500ドルに近づく必要」「豪ドル安が経済を促進するために望ましい」などと発言した事を受け、一時91.789円まで反落した。なお豪11月雇用統計は新規雇用者数が2.10万人増(予想:1.00万人増)となった事を好感して小幅に上昇するも、前回分の下方修正(0.11万人増→0.07万人減)を受けて値を下げるなど、一時的な反応に留まった。
17日	米長期金利が低下してドル/円が値を下げると、豪ドル/円が91.214円まで下落した。なお、今月3日に行われた豪準備銀行(RBA)理事会の議事録が公表され、豪ドル高をけん制するも概ね理事会の声明文を踏襲する内容であったため、豪ドル/円は方向感が出なかった。なお、豪政府が2014-15年の成長率見通しを2.5%(前回8月時点では3%)に引き下げたが、市場の反応は限定的であった。
18日	米連邦公開市場委員会(FOMC)が100億ドルの量的緩和規模縮小を発表すると、NYダウ平均株価が急落して豪ドル/円は90.989円まで値を下げた。ただ、声明でフォワードガイダンスが「失業率が6.5%を下回ってからかなりの期間が経過しても、特にインフレ見通しが2.0%を下回り続けている場合、FF金利の誘導目標を0.00から0.25%の範囲で維持する公算」と修正された事から、同株価が急反発して史上最高値を更新すると、豪ドル/円は92.505円まで大きく上昇した。
20日	米第4四半期国内総生産(GDP)が改定値より大幅に上方修正された事を好感してNYダウ平均株価が上昇。米長期金利が低下して豪ドル/米ドル相場で米ドル売り・豪ドル買いが優勢となった事も重なり、豪ドル/円は一時93.007円まで値を上げた。
31日	NYダウ平均株価が高値を更新すると、豪ドル/円は一時94.054円まで続伸した。年末最終日のオプション行使期限(NYカット:日本時間24時)通過後にドル/円が上昇した事も、追い風となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## AUD / JPY

## 今月のポイント

12月の豪ドル/円相場は90.989～94.202円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.6%の小幅上昇(豪ドル高・円安)となった。スティーブンスRBA総裁が豪ドルの相場水準について言及した事を受け、豪ドル/米ドルが0.88ドル台前半まで下落するのに連れて、豪ドル/円は90.989円まで下落。ただその後、豪ドル/米ドル相場がこのレベルをサポートとして下値を少しずつ切り上げた上、日米の株高も追い風となり、豪ドル/円は反発した。

その豪ドル/米ドル相場であるが、今月3日に約3週ぶりに一時0.9000ドルを回復しており、足下で同総裁発言による豪ドル売りの動きは一服しつつあると考えられる。主要国の株価やドル/円の堅調地合いが重なれば、豪ドル/円は昨年12月10日高値(94.202円)突破が視野に入りそうだ。

材料面では、来月のRBA理事会を読む上で、豪第4四半期消費者物価や豪12月雇用統計に注目したい。昨年12月に公表されたRBA議事録で「インフレターゲットに沿った持続的経済成長を支援するために適切ならば追加利下げの可能性を排除しない」としており、インフレ率の鈍化や弱い雇用状況が示されるようだと、2月の追加利下げ観測が浮上して豪ドル相場を押し下げる事も考えられる。その他引き続き、豪州要人からの豪ドル高けん制発言には注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 90.900～95.800円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

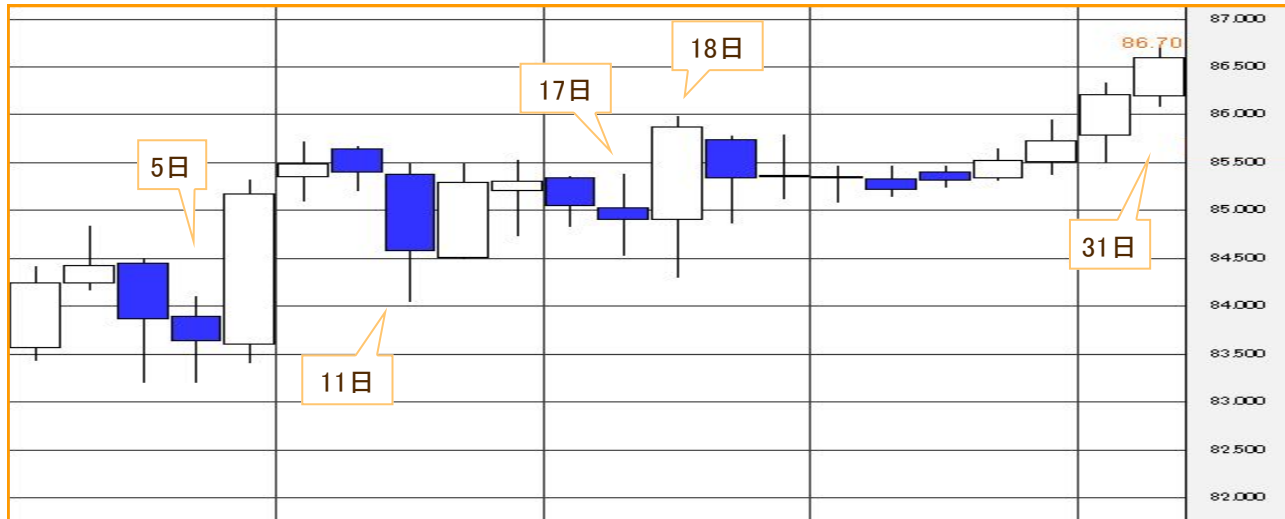
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/1(水)	12月中国製造業PMI	1/14(火)	12月米小売売上高
1/2(木)	12月米ISM製造業景況指数	未定	第4四半期中国GDP
1/3(金)	12月中国非製造業PMI	未定	12月中国鉱工業生産
1/6(月)	12月米ISM非製造業景況指数	未定	12月中国小売売上高
1/7(火)	11月豪貿易収支	1/15(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)
1/8(水)	12月米ADP全国雇用者数	1/16(木)	12月豪雇用統計
	米FOMC議事録(12月17・18日)	1/17(金)	1月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
未定	12月中国貿易収支	1/22(水)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)
1/9(木)	11月豪小売売上高		第4四半期豪消費者物価
	11月豪住宅建設許可件数	1/23(木)	1月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
未定	12月中国消費者物価指数	1/29(水)	米FOMC政策金利発表
1/10(金)	12月米雇用統計	1/30(木)	第4四半期米GDP・速報値

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZD/JPY

## NZドル/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	83.581円	86.702円	83.213円	86.600円



6日	予想より強い結果となった米11月雇用統計を受けてNYダウ平均株価が大幅高となると、NZドル/円は85.328円まで上昇した。
11日	NZ乳製品大手フォンテラが、14年7月期の配当支払いが5~6億NZドルと前回(13年7月期の10.2億NZドル)から半減するとの見通しを発表。これを受け、発表前に85.490円まで値を上げていたNZドル/円は約30銭下落。NY市場ではオセアニア通貨売り・ユーロ買いの流れや、NYダウ平均株価の下落が重石となり、84.058円まで続落した。その後、NZ準備銀行(RBNZ)は市場の予想通り、政策金利の2.50%据え置きを決定。声明で「2014年に景気刺激策を解除し始める見通し」「NZの国内総生産(GDP)は9月の四半期までの1年間で3%以上成長すると予想され、経済成長はかなりの勢いがある」「今後2年3カ月で政策金利を2.25%引き上げる必要」などと発表した事を受け、NZドル/円は下げ幅をやや縮小した。
17日	NZ財務省が年央経済・財政見通しを発表。14/15年度の財政黒字見通しを8600万NZドル、成長率見通しを3.6%と5月の予算案の時点(7400万NZドルの黒字、2.8%)から上方修正した事が好感され、NZドル/円は85.379円までやや値を上げた。
18日	米連邦公開市場委員会(FOMC)が100億ドルの量的緩和規模縮小を発表すると、NYダウ平均株価が急落してNZドル/円は84.309円まで下落した。ただ、声明でフォワードガイダンスが「失業率が6.5%を下回ってからかなりの期間が経過しても、特にインフレ見通しが2.0%を下回り続けている場合、FF金利の誘導目標を0.00から0.25%の範囲で維持する公算」と修正された事から、同株価が急反発すると、NZドル/円も反発。NZ第3四半期GDPが前期比+1.4%、前年比+3.5%といずれも市場予想(+1.1%、+3.3%)を上回った事が伝わると、85.988円まで一段高となった。
31日	NYダウ平均株価が史上最高値を更新すると、NZドル/円は2008年2月以来となる86.702円の高値を記録した。年末最終日のオプション行使期限(NYカット: 日本時間24時)通過後にドル/円が上昇した事も、追い風となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZD / JPY

## 今月のポイント

12月のNZドル/円相場は83.213円～86.702円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.9%の上昇（NZドル高・円安）となった。NZの金利先高観や主要国の株高を受けて堅調に推移し、月の終わりに6年弱ぶり高値水準まで値を上げた。足下でのNZ準備銀行（RBNZ）の利上げ開始時期について、エコノミストの間では従来の「14年前半」から「第1四半期」との見方が増え、金利先物市場では今月の0.25%利上げを50%ほど織り込んでいる。

1月は、RBNZオフィシャル・キャッシュレートに市場の関心が集まりそうだ。昨年12月の金融政策発表の際に「将来の平均インフレを目標の2%近くに維持するため、必要に応じ政策金利を引き上げる」「今後2年3カ月で政策金利を2.25%引き上げる必要」などの見方を示しており、各四半期に概ね0.25%の利上げが想定される。もし第4四半期NZ消費者物価（CPI）でインフレの加速が示されれば、今月の利上げ開始観測が高まり、NZドルは買われやすいと見る。金融政策を読む上でこちらも注目したい。直近のNZの経済指標を見ると、GDPの上昇や失業率の低下など実体経済の回復を示唆している事から、仮に今回の会合で金利を据え置いたとしても、3月の利上げ期待は維持されると見られる。NZドル売りの動きが出て一時的となるだろう。（川畑）

（予想レンジ：84.000～88.600円）

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

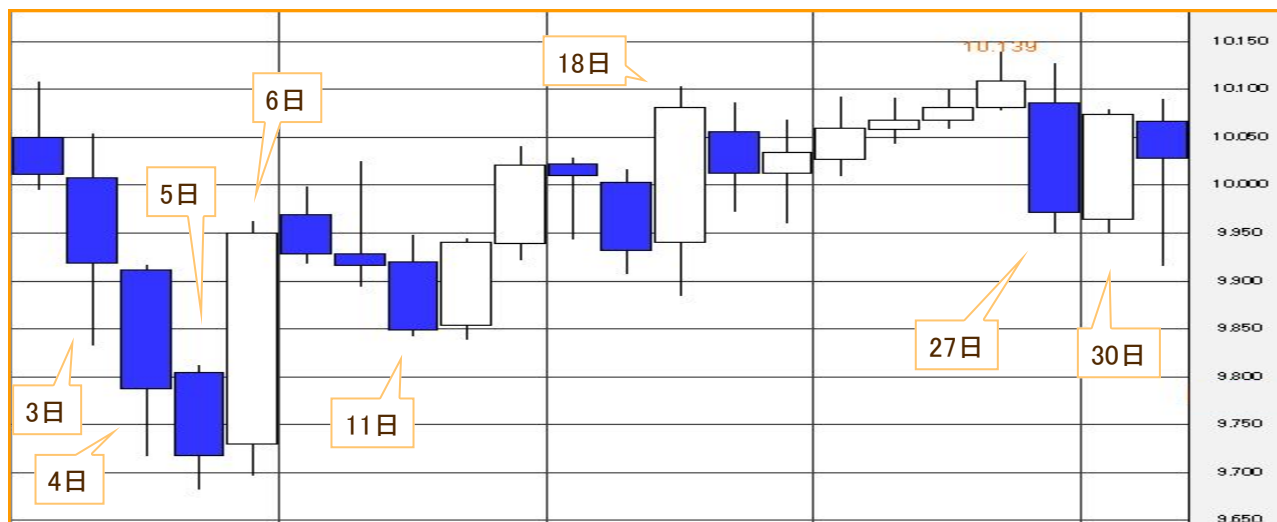
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/1(水)	12月中国製造業PMI	未定	12月中国小売売上高
1/2(木)	12月米ISM製造業景況指数	1/15(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)
1/3(金)	12月中国非製造業PMI	1/17(金)	1月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
1/6(月)	12月米ISM非製造業景況指数	1/20(月)	第4四半期NZ消費者物価
1/8(水)	12月米ADP全国雇用者数	1/22(水)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)
	11月NZ住宅建設許可	1/23(木)	1月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
未定	12月中国消費者物価指数	1/29(水)	米FOMC政策金利発表
1/10(金)	12月米雇用統計		RBNZオフィシャル・キャッシュレート
1/14(火)	12月米小売売上高		12月NZ住宅建設許可
未定	第4四半期中国GDP	1/30(木)	第4四半期米GDP・速報値
未定	12月中国鉱工業生産		12月NZ貿易収支

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## ランド/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	10.050円	10.139円	9.684円	10.029円



3日	NYダウ平均株価の下落を嫌気して、ランド/円は9.834円まで値を下げた。南ア第3四半期経常収支が2162億ランドの赤字、対国内総生産(GDP)比で6.8%(予想:2112億ランドの赤字、対GDP比で6.0%)となった事も重石となった。
4日	取引開始直後に上昇したNYダウ平均株価が下げに転じると、ランド/円は一時9.719円まで下落した。なお、南ア準備銀行(SARB)のムミネレ副総裁が「中期のインフレ見通しが大幅に悪化すれば、金融政策委員会は迷わず適切な行動を取る」と発言するも、市場の反応は薄かった。
5日	米国の量的緩和縮小観測に伴ってドル買い・ランド売りが優勢となり、ドル/ランド相場で2009年3月以来のランド安を記録。これを受けてランド/円は9.684円まで売られた。
6日	予想より強い結果となった米11月雇用統計を受けてNYダウ平均株価が大幅高となると、ランド/円は9.963円まで上昇した。
11日	南ア10月小売売上高が事前予想(前年比+1.7%)を下回る同+1.3%となった事を受け、ランド/円はやや売られた。なお南ア11月消費者物価指数は前年比+5.3%(予想:+5.4%)であったが、市場の反応は限定的であった。
18日	米連邦公開市場委員会(FOMC)が100億ドルの量的緩和規模縮小を発表すると、NYダウ平均株価が急落してランド/円は9.886円まで値を下げた。ただ、声明でフォワードガイダンスが「失業率が6.5%を下回ってからかなりの期間が経過しても、特にインフレ見通しが2.0%を下回り続けている場合、FF金利の誘導目標を0.00から0.25%の範囲で維持する公算」と修正された事から、同株価が急反発すると、ランド/円は10.103円まで上昇した。
27日	トルコの政局不安を背景にリスク回避の動きとなり、ランド/円は一時9.952円まで売られた。
30日	NYダウ平均株価の史上最高値更新を受け、ランド/円は一時10.079円まで値を上げた。南ア11月貿易収支は8億ランドの黒字(予想:97億ランドの赤字)となった事も、追い風となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 今月のポイント

12月のランド/円相場は9.684円～10.139円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは0.3%の小幅下落(ランド安・円高)となった。米国の量的緩和縮小観測を受けたドル買い・ランド売りの動きにより下げたものの一時的となり、主要国の株価上昇により下げ幅を縮小するなど、ランド/円は前月(9.467円～10.134円)よりも狭い値幅でもみ合う展開となった。

今年に入り、ドル/ランド相場は約5年ぶり高値水準に上昇(＝ランド下落)しており、月足チャートからは上昇トレンド入りの可能性が読み取れる。一方、南ア準備銀行(SARB)は昨年11月の金融政策レビューで、ランド安に対して介入を行う事については消極的な姿勢を示している事から、現状ではSARBが自国通貨の為替レート維持を目的とした介入を行う公算は小さい。今月もドル/ランド相場が上昇する場面ではランド/円相場を下押すと見られる。もっとも、ドル/円相場や主要国株価が堅調地合いとなっている中では「リスク・オン」の動きがランド/円相場を下支えする事も考えられ、結果ランド/円相場は先月に続き方向感が出ないだろう。

なお、今月の南アの金融政策発表について、市場では金利据え置きが広く予想されている。その際に発表される声明で、GDP見通しやランド相場の水準について言及があるか注目したい。(川畑)

(予想レンジ:9.200～10.400円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/1(水)	12月中国製造業PMI	未定	12月中国小売売上高
1/2(木)	12月米ISM製造業景況指数	1/15(水)	11月南ア実質小売売上高
1/3(金)	12月中国非製造業PMI		米地区連銀経済報告(ページブック)
1/6(月)	12月米ISM非製造業景況指数	1/22(水)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)
1/8(水)	12月米ADP全国雇用者数		12月南ア消費者物価指数
	米FOMC議事録(12月17・18日)	1/23(木)	1月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
未定	12月中国貿易収支	1/29(水)	SARB政策金利発表
未定	12月中国消費者物価指数		米FOMC政策金利発表
1/10(金)	12月米雇用統計	1/30(水)	12月南ア生産者物価指数
1/14(火)	12月米小売売上高		第4四半期米GDP・速報値
未定	第4四半期中国GDP	1/31(金)	12月南ア貿易収支
未定	12月中国鉱工業生産		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。